

副詞分類

2021年9月26日

国分芳宏

用言を修飾する用語を副詞と言います。名詞に副助詞がついた文節も副詞として働きます。擬態語・擬音語を含めて約10,000の副詞を集めました。副詞は修飾できる用語に制限があります。構文解析の精度を上げるためにこの制限に注目して様態副詞、程度副詞、数量副詞、呼応副詞に分類しました。呼応副詞をさらに21種類に分類しました。副詞は複数の表記が許されているものがあります。擬態語・擬音語は片仮名で、それ以外も平仮名で表記されるものも多く見受けられます。ここでは新聞などで使われている標準的な表記を採用しました。

副詞の分類

係り先に制限に注目して副詞を次の4種類に分類します。

様態副詞 動詞に係って動作の様態を示します。

程度副詞 形容詞・形容動詞に係ってその程度を示します。

数量副詞 数量詞に係ります。

呼応副詞 特定の助動詞の組み合わせ（モダリティ）に係ります。

様態副詞 1793語

動詞に係り動作の様態を表します。擬態語もここに含まれるので数は一番多くあります。

時間を表す名詞は、様態副詞としても働きます。2284語

例 今日の良い天気だ 「今日」は名詞

例 今日学校へ行った 「今日」は様態副詞

数量を表す名詞は、程度副詞としても働きます。

例 3個だけ買ってきた 「3個」は名詞

例 3個多い 「3個」は程度副詞

擬態語・擬音語 5452語

様態副詞として働きます。数は多いです。擬態語・擬音語には形容動詞として働くものもあります。形容動詞として働くときはアクセントが平板形に変わります。

例 ベとベとくっつく
さらさら流れる
形容動詞として働く例
餡がベとベとだ
ベとベとになる

程度副詞 354 語

形容詞、形容動詞に係り、その程度を示します。

例 とても 大きい
非常に 元気だ

よく使われるようで、新しい程度副詞も見受けられます。

めっちゃ 地味に

例 程度副詞「とても」は「興味深い」という形容詞に係りますが様態副詞「案の定」は係りません。

とても――	案の定――
興味深い――	興味深い――
話でした。	話でした。

程度副詞ではありませんが 「鬼」という形容詞の程度を示す接頭辞があります。ここでふれておきます。他に「激」「超」などがあります。

例 鬼つらい
激安
超きれい

程度副詞が次の形容詞を省略させることがあります。

「すぐくたくさん食べた。」という文のなかで、「たくさん」という形容動詞を省いて「すぐく食べた」としてもほぼ同じ意味になります。

程度副詞は否定に係りません。

だめな例 ×とても ない

ただし次の程度副詞は否定に係ります。

あまり、さして、すこし、まだ

程度副詞ではないのに形容詞に係るものもいくつかあります。

ちょうど良い まだ早い

副助詞が名詞についた結果、程度副詞になるものがあります。

にくらべて
ばかり
ばっかり
だけ
ほど
より
くらい

程度副詞として形容詞に係る例

弟より—
大きい。

程度副詞は連体詞には係りません。「大きな」、「小さな」、「おかしな」の3つの用語は活用がないので連体詞に分類されていることを見受けます。次の例では「大きな」という連体詞に「とても」という程度副詞がかかりますが「いわゆる」という連体詞には係りません。

とても—	いわゆる—
大きな—	大きな—
リンゴです。	リンゴです。

数量詞は程度副詞としても働き形容詞に係ります。

1年—	これは—
遅い—	遅い—
卒業です。	話です。

数量副詞 57

数量詞を修飾する副詞です。数量詞は名詞と考えれば連体詞と考えることもできます。数量詞は副詞としても働くのでここでは数量副詞ということにします。

次の例では数量副詞「およそ」は「5本」という数量詞に係りますが「きっと」は係りません。数量詞は副詞としても働きます。

およそ— 5本— あります。
 きっと— 5本— あります。

呼応副詞 621

本によっては陳述副詞と書いてあるものもあります。

呼応副詞は文節の末尾にある文節の意図を示す付属語の並びに係ります。

次の例では、呼応副詞「さっぱり」は否定の意図である「ません」に係りますが、継続の意図である「ています」には係りません。

さっぱり— 働きません。
 ×さっぱり— 動いています。

また次の例では、呼応副詞「是非」は願望の意図「たい」に係りますが推量の意図「でしょう」には係りません。

是非— 会いたい。
 ×是非— 働くでしょう。

文節間の係り受けを表にしました。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	係 / 受け
連体	連用	独立	連両	様態	程度	呼応	数量	句点	
3			1						1 体言 机
	1		1	1	1	1	1		2 用言 食べる
1	1		1	1	1	1	1		3 両言 断定・慣用句
		1	1	1	1	1			4 副詞 すっかり
		1	1	1		1			5 形容 青い・形容動詞
1							1		6 否定 ない
								1	7 数詞 3日
1	1	1	1	1	1	1	1	1	8 独立 突如
									9 句点 。

次見お私早と少お。
 のてお私早とくてももそ
 う

注 1 : 係り受けになる 空白 : ならない

注 呼応の副詞については否定以外の説明が必要ですが、省略しました。

複数の分類の働きをする副詞があります。多義語として考えます。

辞書には異なった分類ごとに複数登録しました。

例 さっぱり 味付けする 様態副詞

さっぱり	見当たらない	呼応副詞	否定
必ず	する、しましょう	呼応副詞	意志
必ず	お願いします、ください	呼応副詞	依頼
必ず	したものだ	呼応副詞	習慣
必ず	見る	様態副詞	

副詞の生成

いくつかの用語が組み合わされて副詞として働く組み合わせがあります。

動詞の連用形は副詞として働きます。

動いて いる
飲んでは いない

形容詞、形容動詞の連用形は副詞として働きます。

早く くる
元気に 過ごす
元気で 過ごす

名詞に副助詞がついて呼応の副詞として働くものがあります。

しか
きり
にも
さえ
すら
すらも
のほか
を除いて

慣用句が副詞として働くものがあります。 941 語」

例

最初から最後まで
前後の見境もなく
腕によりを掛けて
途轍もなく (程度副詞)

呼応副詞の分類

呼応の副詞をその係るモダリティーによって 21 種類に分類しました。応じるモダリティーの意味、呼びかけ副詞の意味、応じるモダリティー。ここでは意味を持った付属語の並びをモダリティーと呼んでいます。複数の異なった分類に入る呼応副詞もあります。

否定	呼	何ごとも、根も葉も、全く
	応	ない、ありません、まい、ず
不可能	呼	しょせん、とても、どうせ
	応	だめだ、できない、ならない、いけない
願望	呼	なるべく、何とか、急いで
	応	たい
原因・理由	呼	さすが、もちろん、たしか
	応	だ、です、である、なのだ、ので
依頼	呼	すまないが、早急に、必ず
	応	てもらおう、お願いします、てください、
仮定	呼	もし、仮に、例え
	応	たとしたら、たら、からには、以上、ば、なら
推量	呼	さぞ、おそらく、たぶん
	応	だろう、でしょう、違いない、はずだ
継続	呼	しばらく、のべつ、現在
	応	ている
可能性	呼	ことによると、むしろ、案外
	応	かも知れない
意外	呼	まさか、珍しく、不思議なことに
	応	たとは
疑問	呼	いくつ、どうして、はたして

	応	か、のか、だろうか、なのか
言い換え	呼	ぶっちゃけ、幸い、ほんとは
	応	なのだ
不本意	呼	うっかり、ついつい、おしくも
	応	てしまったが
比況	呼	さながら、やはり、予想どおり
	応	ようだ、ごとし、らしい
反立	呼	せっかく、精一杯、必死に
	応	のに
習慣	呼	いつも、とかく、たいてい
	応	したものだ
過去	呼	とっくに、かつて、さっき
	応	た、てある、ばかりだ、ところだ
勧誘	呼	ぜひ、まず、すぐに
	応	ましょう、ませんか
条件	呼	いくら、どんなに、なんぼ
	応	ても
伝聞	呼	なんでも、きけば、いいかえると
	応	そうだ、とのことだ
迷惑・受身	呼	なくなく、しかたなく、やむを得ず
	応	させられた

接続詞

文と文との中間にあって、両者の関係を示している用語です。

語源的には文末が独立して一つの用語になったものが多く見られます。この場合、文末で用いられた場合とはアクセントが異なることがあります。

例	努力すると	文末	スルト
	すると	接続詞	スルト

接続助詞は文の後ろについて接続詞といて働き次の文との関係を示します。

例	書いたがしかし	逆接
	有名な人にしては	原因

関係として採択したものを示しました。

仮定 仮定の下に結果を考える。
かりに、よしんば

逆接 前の事から予想される結果とは逆の結果になることを示します。
かえって、しかし

結論 前の事からについて結論を述べます。
いずれにしても、このように

原因 原因→結果・理由の関係にあることを表します。
こうして、結局、よって

限定 前の事柄（後の事柄）の話題を限定的にします。
ただし、まさに

時間 時間の話題をつなげます。
すると、とたんに

順序 前の事柄に対して後の事柄を並べ上げる際その順番を示します。
てはじめに、つづいて

順接 前の事柄が原因・理由となり、あとの事柄が結果・結論となることを示します。
したがって、それから

説明 前の事がらについての説明を述べます。
というのは、なぜなら

選択 前の事がらと後の事がらを選択します。
それとも、または

対比 前の事がらと後の事がらを比べます。
それに対して、反面

注目 前のことがらのことをとりあげ注目します。
とりわけ、なかでも

展開 話の本筋を切り換えたりまとめたりします。
いっそ、ついでに

添加 前の事がらに後の事がらを付け加えます。
さらに、加えて

転換 前の事がらと話題や状況を変えます。
さて、ともあれ

並列 前の事がらに後の事がらを並べます。
おまけに、もしくは

変化 前の文との変化を述べます
しだいに、だんだん、ますます

補足 前の事がらについて補足します。
ちなみに、実のところ

間投詞

文と独立して用いる用語です。挨拶などとして用います。

例 おはよう、 頑張ります

以上